



男女共同参画とは？

エプロン通信員 備瀬 真理

皆様、お元気ですか？季節はもう冬。8月から12月にかけて毎月のように誕生日を迎える我が家は毎年、下半期が早く過ぎ去ります。師走のお忙しい中、1年の終わりに気の利いたことも書けませんが、御一読頂けたら幸いです。

ずっと専業主婦だった私、このままだと精神衛生上良くないと思いパートをしましたが(すでに過去形)、こんな思いしてまで働きたくない！と辞めました。

「大変だったね。きつと厄年なんだよ。外に出ずに家でジーンとしてな。買いたいシャツも年が明ければ安くなるかもしれないじゃん」

「じゃあ、今年いっぱい、半袖で頑張る！」
こんな会話を笑ってできる人がいることを心強く思いながら、振り返ると・・・パートを経験して、子供のこと、夫のこと、自分のこと、そして、社会における男女共同参画について考えさせられ、結果的にパートを経験してよかったです。

男女共同参画が叫ばれる今、それが完全に浸透するまで、あとどれ位かかるでしょうか？本当に男女が肩を並べて居心地よく働ける時代は来るのでしょうか？子供を取り巻く環境はどうなっていくのでしょうか？

私は、メジャーリーガーのイチロー選手が言った「いいチームとはいいいタレントが揃ってできるものではなく、いい人間がつくるものだ」という言葉が忘れられません。これは、組織、家族どちらにも言えるのではないのでしょうか？これからは、何に価値観を置いてどう生きていくか考えながら、子供も大人もその人が培ってきたものを認め、伸ばそうと思える人が増えればいい、少なくとも私はそうありたい、と思いました。

最後に、エプロン通信員になったことで、月1回の原稿チエックの際にはいつも味わえないような緊張感を味わえ、たくさんの方々から声をかけて頂いたこと、本当に感謝しております。来年が皆様にとりまして良い年でありますように。



茶 ぐわいゆんだく 68

宜野湾の田から

今年もあと僅かとなりました。この時期になると、大山地区の田んぼ地帯(大山ターブックワ)では、正月料理を飾るタイムの収穫時期を迎えています。

この大山ターブックワは、古くから農地として使用されてきました。ターブックワの周辺には、たくさん湧き水があり、戦前は那覇まで水を供給したほど水の豊かな地域です。現在でも湧き水を利用して農作物が作られ、特にタイムの生産地として有名です。

ところで、大山ターブックワには貴重な生物が棲み、豊かな自然を残す場所でもあります。水辺には、コンジナガエビやモクスガエビなどの生き物が棲み、夏には螢を見ることが出来ます。今の時期には、越冬のためにタゲリやセイタカシギなどの渡り鳥が

田んぼを訪れ、収穫の終えた田んぼで餌をついばんでいます。さらには、リュウウキウヨシノイ(鳥類やヤバシなど)多くの生き物を観察できます。また、今では無くなりましたが、マングローブの一種であるメヒルギが生え、ミスワラビなどの植物も見ることが出来ます。

こうした生き物たちも、社会の変化とともに見る機会が少なくなりました。ですがよく目を凝らせば、まだ身近な場所でも見ることが出来るかもしれません。宜野湾の宝である大山ターブックワへ出かけてみてはいかがでしょうか。



▲海水と淡水が混ざる所にあったメヒルギ (2000年撮影)



▲湧き水で見かけるコンジナガエビ

『宜野湾市史』への問い合わせ
教育委員会 文化課
☎ 893-4430